

まほろばだより

2019
June
vol. 29

～ Center for Diversity and Inclusion ～

第29号

● Contents ●

- ✓ Report1 第8回女性研究者学術研究奨励賞授賞式を開催しました
- ✓ Report2 良き医療人育成プログラム「ロールモデルを探る」の授業を行いました
- ✓ Report3 研究支援員配置制度の効果
- ✓ Information1 2019年度下半期研究支援員配置申請の希望者を募集します
- ✓ Information2 2019年度女性研究者・医師支援センター科研費申請推進事業の希望者を募集します

Report

1

第8回女性研究者学術研究奨励賞授賞式を開催しました



5月29日、本学臨床第一講義室にて「第8回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞授賞式」を執り行いました。

本学では、優れた研究成果を挙げた女性研究者を顕彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資することを目的に「女性研究者学術研究奨励賞」を設置しています。

今回は、3月18日に選考委員会が開催され、消化器・総合外科学講座の長井美奈子先生が受賞されました。授賞式では、細井学長から選考の講評・賞状等の授与が行われ、長井美奈子先生が「膵切除後合併症低減および膵癌予後向上に関する基礎的・臨床的研究」について講演されました。

【長井美奈子先生からのコメント】

この度、第8回女性研究者学術研究奨励賞を受賞させていただき、大変光栄に思います。ご指導いただきました庄 雅之教授、肝胆膵グループ、教室の先生方に感謝申し上げます。肝胆膵外科専門となってから7年、主に膵癌を含む膵疾患治療および術後合併症治療・リスク因子に関する臨床研究を行ってまいりましたが、今回これらの研究を評価していただき嬉しく思うとともに大変恐縮しております。また、今回の受賞に際してご尽力いただきました女性研究者・医師支援センターのスタッフの皆さま方にも深く感謝を申し上げます。今後はさらなる基礎・臨床研究に励み、本学の発展に微力ながら貢献したいと思っております。



Information

1

2019年度下半期研究支援員配置申請の希望者を募集します

2019年度下半期(2019年10月～2020年3月)の研究支援員配置申請の希望者募集については、7月に案内予定です。制度の利用を検討されている方は、当センターまでお気軽にお問い合わせください。

《研究支援員配置申請の対象者》

本学に所属する常勤の女性教員(教授、准教授、講師、助教)、診療助教及び研究助教で、以下に該当する方々

- ① 妊娠から出産までの期間の方
- ② 子育て中で小学校6年生までの子供を自身で主に養育している方
- ③ 要介護者・要看護者である家族を自身が主に介護・看病している方
- ④ 不妊治療中の方



良き医療人育成プログラム「ロールモデルを探す」の授業を行いました

4月12・19・26日に、医学科2年生124名を対象として、女性研究者・医師支援センター教員の須崎マネージャーと裏山コーディネーター(生物学)を中心に、「ロールモデルを探す」の授業を行いました。授業は、基調講演、講演内容に沿った課題を議論するグループワーク、学生の発表と質疑応答、演者を含む教員と学生との対話の順に進められました。学生たちは、懸命に講演に耳を傾け、グループワークに取り組み、活発な議論を交わしていました。

計3回の授業では、学生は理解できなかったこと、納得できなかったこと、同意できなかったことも多々あったと思いますが、今後の学生生活の中で、疑問に感じた事柄の答えを見つけ出して欲しいと願っています。その手助けができるように、今後も当センターは医学教育に取り組んでいきたいと思っています。



グループワークを指導する
裏山コーディネーター



発表の様子



質疑応答の様子

● 第1回(4月12日)

講演「本学の教育改革に取り組む」

医学部長 車谷典男先生



課題

- ①ある大学医学部では臨床実習に参加する男子学生にはネクタイ着用を義務付けているそうです。このことに関する賛否とその理由をあげてください。
- ②4年生の臨床統合講義では、学生との話し合いを経て座席指定に踏み切りましたが、その是非を論じてください。
- ③教員にすれば授業中に私語やスマホを使う学生は困った学生と捉えます。学生から見て困った教員像(固有名詞ではない)をあげて、改善策を提案してください。

学生の意見

課題②の座席指定に関しては、担当した学生の80%(32人)が否定派、20%(8人)が肯定派という結果でした。否定派の主な意見としては、「学生の自主性を損なう」、「聞かぬ気がない人が前に座ると授業の雰囲気が悪くなる」、「自分が集中しやすい席で授業を受けたい」等がありました。また、賛成派の意見としては、「出席確認が容易にできる」、「教員と学生の意思疎通がしやすくなる」、「友好関係が広がる」等がありました。

● 第2回(4月19日)

講演「医師の男女共同参画」

女性研究者・医師支援センター マネージャー 須崎康恵先生



課題

- ①医師の男女共同参画が日本社会に及ぼす良い影響を考えてください。
- ②本学では第3期中期計画において、医学科女性教員割合を20%(現状16.9%)、常勤女性医師数を140人(現状121人)にする目標を掲げています。目標達成に効果的な取り組みを提案してください。
- ③医学教育モデル・コア・カリキュラムが目指す「多様なニーズに対応できる医師」の養成のために効果的な学修方法や学修環境を提案してください。

学生の意見

課題①の良い影響として、「女性医師の診察を希望する患者さんの権利が守られる」、「女子の医学部受験者が増える」、「多様な考え方や新たな視点を社会にもたらす」、「他分野での女性活躍を促す」といった意見がありました。課題③に関しては、「社会的マイノリティーの人達の話聞く機会」、「児童相談所や介護施設等でのボランティア活動」、「看護師や薬剤師など医療系の他職種の人達との交流」といった学修方法の提案がありました。

講演「私はなぜ奈良医大を、そして、小児科医を目指したのか？」

～入学は補欠、卒業は首席。小児科教授に、そして、学長・理事長に～

名誉教授 吉岡章先生

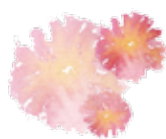


課題

- ①奈良医大では優秀で意欲的かつ多様な医学生の入学を求めて、種々の入学枠を設置していますが、これらの入学枠は、概ねこのままで良いと思うのか、変更するのが良いと思うのか考えてください。
- ②あなたは将来、本格的な留学を希望するかどうか考えてください。
- ③あなたは将来、学位(医学博士)の取得を目指すかどうか考えてください。

学生の意見

課題①の入学枠に関しては、担当した学生の56.1%(23人)がこのままで良いと考え、42.9%(18人)が変更するのが良いという考えでした。課題②に関しては、担当した学生の70.7%(29人)が留学を希望せず、留学を希望する学生は29.3%(12人)でした。留学を希望する理由としては、「日本の医療の長所や短所が見える」、「視野を広げたい」等がありました。課題③の学位取得に関しては、担当した学生の63.4%(26人)が学位取得を目指さないと答え、取得を目指す学生は36.6%(15人)でした。学位取得を目指さない理由としては「必要性がわからない」、「取得する理由やメリットがわからない」、「臨床業務を大切にしたい」等がありました。



Report

3

研究支援員配置制度の効果

当センターでは、妊娠・出産、育児、不妊治療、介護等のライフイベントにより一定期間、研究時間が十分に確保できない女性研究者・医師に対し研究支援員を配置しています。現在は、診療助教3名、臨床医学教育部門教員4名、教養教育・基礎医学教育部門教員3名の合計10名が研究支援員配置申請を行っています。

平成23年度より開始した本制度の実利用者は、平成30年度までで17名となっています。これら17名の女性研究者・医師のうち、定年退職の1名を除く16名全員が、出産・育児等のライフイベントと研究を両立し、現在も本学で就労を継続しています。また、支援員配置申請後に、10名の女性研究者・医師が昇進し、12名が科研費の獲得に至っています(図1)。

本制度は、利用者個人の就労継続や昇進、研究力向上に寄与すると同時に、本学が女性のライフイベントと研究の両立、アカデミアでの就労継続を積極的に支援していることを示す制度にもなっており、大学全体への波及効果は大きいと考えます。

図1 平成23年度から平成30年度までに研究支援員を配置された女性研究者・医師

部 門	配置申請理由	職 位		科 研 費		配置後の状況
		配置申請時	配置申請後	配置申請時	配置申請後	
教養教育・基礎医学教育部門	A 育児	講師		○	基盤研究(C)	
	B 育児	助教	講師昇任	×	若手研究(C)、基盤研究(C)	
	C 育児	助教		○	基盤研究(C)	
	D 育児	助教		○	基盤研究(C)	第2子出産後、復職
臨床医学教育部門	E 育児・介護看病	助教	講師昇任	×	基盤研究(C)	
	F 育児	診療助教		×	若手研究	第2子産休中
	G 育児	診療助教	助教採用	×	基盤研究(C)	第2子出産後、復職
	H 育児	診療助教	助教採用	×		第2子出産後、復職
	I 妊娠出産・育児	診療助教		×	若手研究	育児休業後、復職
	J 妊娠出産・育児	助教		×		育児休業後、復職
	K 育児	診療助教	助教採用	○	基盤研究(C)	
	L 育児	診療助教	助教採用	×		
看護学科	M 育児	准教授		×		
	N 育児	准教授	教授発令	×	基盤研究(C)	
	O 介護看病	准教授	教育教授称号付与	○		定年退職
	P 育児	助教	講師昇任	×	挑戦的萌芽研究	
	Q 育児	助教	講師昇任	×	基盤研究(C)	

2019 年度女性研究者・医師支援センター 科研費申請推進事業の希望者を募集します



当センターでは、科学研究費（科研費）申請推進事業として、民間会社への委託による申請内容の面談と書類の添削を行っています。対象者は、前年度科研費助成事業に申請していない臨床医学部門女性教員と女性診療助教および看護学科女性教員です。当事業は、女性研究者・医師の科研費申請割合の向上を目的に平成28年度から実施しています。

平成28年度実施分では10名が利用し、全員が応募申請をすることができ、内2名が採択されました。平成29年度実施分では8名が利用し、全員が応募申請することができ、内2名が採択されました。平成30年度実施分では7名が利用し、全員が応募申請し、内1名が採択されました。

図1は、平成27～29年度における本学の科研費不申請教員割合の推移です。当事業開始前の平成27年度には医学科、看護学科ともに女性教員の科研費不申請割合は30.0%を超えていましたが、平成29年度には、医学科では25.4%と男性教員の不申請割合と変わらないまでに、看護学科では17.2%と大幅に減少しています。女性研究者・医師支援センターの科研費申請推進事業は、当初の目的どおり、本学女性教員の科研費申請を促すことに寄与してきたと考えます。

また近年、本学女性教員の競争的資金獲得割合も増加しており、平成30年度には、男性教員を上回る46.6%に上昇しています（図2）。これらの結果は、法人全体で取り組んできた女性研究者・医師に対する支援活動の成果であり、今後当センターでは本事業を通して、その一翼を担っていきたいと思います。

女性教員および女性診療助教が所属する臨床医学部門と看護学科には、事業の詳細を7月ごろに文書で案内予定です。ご興味を持たれましたら是非ご利用ください。

図1 平成27～29年度における科研費不申請教員割合の推移

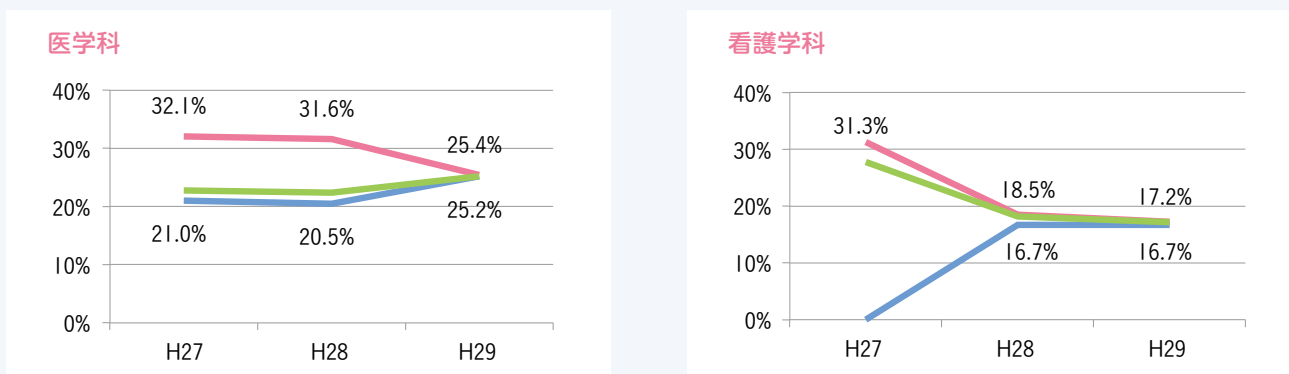
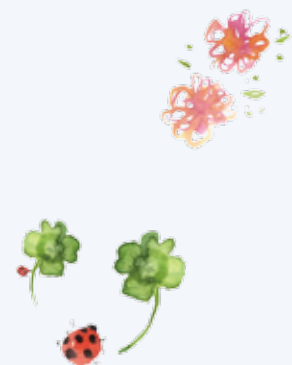
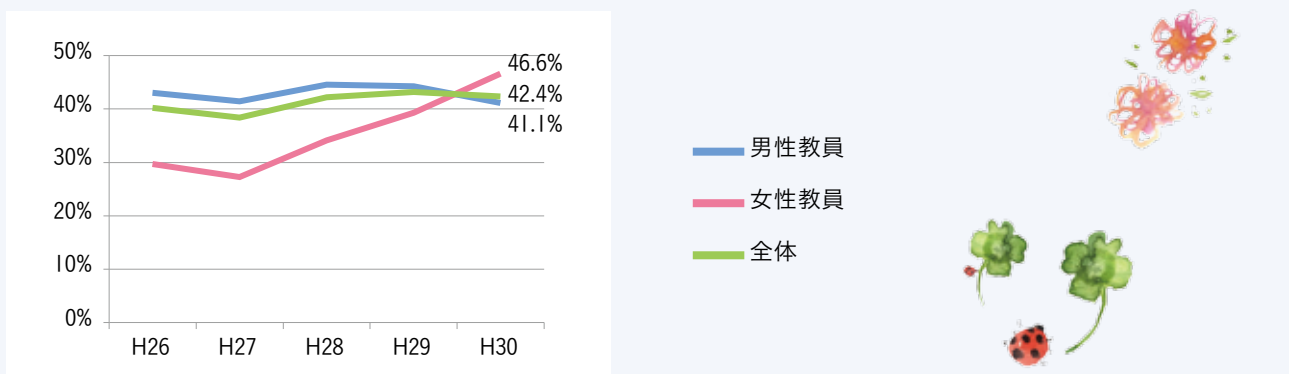


図2 平成26～30年度における本学の競争的資金獲得教員割合の推移



【編集後記】

前号でもお伝えしておりました通り、本年4月から当センターの名称を女性研究者・医師支援センターに改めました。まほろばだよりも今号より新たなデザインとなっています。元号が平成から令和へと改まった節目の年に変化を迎えることが出来ました。令和の時代には平成よりも多種多様な働き方が生まれるのかもしれませんが、あらゆる人々にとって働きやすい環境となりますように、また、その環境を実現するための活動を地道に続けていくことができればと願っています。

【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階
TEL：0744-23-8011(直通)
0744-22-3051(代)内線：2525
E-mail：jshien@narmed-u.ac.jp

